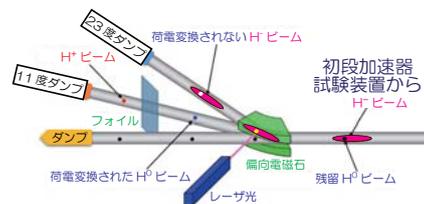


4. 初段加速器からの3MeVビームのレーザ荷電変換試験に成功(6月28日、リニアック棟)

J-PARCでは、核変換実験施設の建設を検討しており、将来、施設ではリニアックからの負水素イオン(H^-)ビームにレーザ光を照射して電子を剥ぎ取り H^0 ビームとし、更に荷電変換フォイルで電子を剥ぎ取り H^+ ビーム(最大10W)として取り出します。これまで、リニアック棟クライストロン準備室でレーザ荷電変換実証試験のための荷電変換装置および初段加速器試験装置などの準備を進めてきましたが、6月28日に初段加速器からの3 MeV ビームによる荷電変換試験に成功し、 H^+ ビームを11度ダンプに取出しました。



レーザー荷電変換実証試験の概念図

5. 第12回ミュオン g-2/EDM コラボレーションミーティング(6月29日-7月2日、J-PARC 研究棟)

Muon g-2/EDM collaboration meetingをJ-PARC研究棟で開催し、日本、カナダとアジア圏の3ヶ国から約65名の研究者が参加しました。今年5月のKEK-PIP諮問委員会*で議論されたJ-PARCに関するプロジェクトでは、ミュオン施設のHライン建設とg-2/EDM実験計画が確認されました。本会議冒頭、齊藤直人J-PARCセンター長が挨拶し、その後、関係者による極冷ミュオンビームを用いたミュオンg-2/EDM(異常磁気能率/電気双極子能率)の精密測定の詳細について報告と意見交換、MLFのミュオン実験施設Hラインの建設状況の紹介と見学が行われました。



コラボレーションミーティング参加者による集合写真

*KEKのプロジェクト実施計画について助言を得るための諮問委員会

6. 第2回 J-PARC 請負業者等安全衛生連絡会(7月6日、いばらき量子ビーム研究センター)

J-PARCの職員とJ-PARCで作業を行う業者の方が「安全確保を徹底する」という安全意識を共有することを目的として、昨年度から連絡会を開催し、今回は66社74名が参加して行われました。石井哲朗安全担当副センター長が、まずJ-PARCの概要、最近の研究成果について話し、続いて、J-PARCにおける最近の事故・トラブルの報告や作業時の注意事項、新たな取り組みとして、「Mindful of Others: 危ないと思ったら声を掛けよう」の運動について説明を行いました。意見交換では、参加者から携帯電話による通信が良好で無い作業時の対応策についての要望等が出されました。



連絡会会場の様子

7. J-PARC ハローサイエンス(6月22日東海村立村松小学校、7月7日白方小学校)

J-PARCセンターは6月と7月に、東海村内の2つの小学校の科学クラブでJ-PARCハローサイエンスを開催し、電池と磁石で作る不思議な世界を披露しました。磁石を付けた乾電池が銅線のコイルの中を走り回る“走る乾電池”は、今回も大人気でした。また、コイルに流す電流の向きをタイミング良く切り替える“手動モーター”の実演を交えて、モーターは永久磁石と電磁石の間で働く引き合う力と、反発し合う力をうまく使って回転することを説明し、モーターの原理について分かりやすく解説しました。



坂元 J-PARC 広報アドバイザーから実験の説明を聞く子供達

8. TIA Flower arrangement class(7月7日、原子力科学研究所)

東海村国際交流協会(TIA: Tokai-mura International Association)などとの共催の生花教室を原子力科学研究所・先端基礎交流棟で行いました。今回の生花では、ゆり、バラ、グラジオラス、クルクマ、ケイトウなどを花材として用いて、先生方の指導のもと、出来上がりをイメージしながら剣山に主枝、客枝、中間枝などを差してかたちをつくりました。初夏をイメージさせる爽やかな作品を作り上げた11名の参加者は、お互いの作品を鑑賞し、それぞれの職場に飾るべく大切に持ち帰りました。



生花の作品を前に写真に納まる参加者

9. ご視察者など

6月28日 文部科学省 科学技術・学術政策局 研究開発基盤課
量子研究推進室 橋本一郎室長補佐